

弟子屈町地域公共交通活性化協議会協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

弟子屈町は、北海道の東部に位置し、摩周湖や屈斜路湖などの優れた景勝地や観光資源に恵まれ、年間100万人を越える観光客が20万台以上の車両で訪れている。こうした現状から平成17年度に環境にやさしい観光交通体系の構築に向けた取り組みを開始、平成20年度には「弟子屈町地域公共交通総合連携計画」を策定し、弟子屈町の地域公共交通の活性化及び再生の総合的かつ一体的な推進に関する基本的な方針を「環境にやさしく、生活交通と観光交通が一体となった地域交通体系の構築」として定め、公共交通活性化と観光交通体系構築との一体的な取り組みを推進してきた。

また、令和元年度には、変化していく社会経済情勢に対応した地域公共交通網の形成に向けて「弟子屈町地域公共交通網形成計画」を策定し、高齢化社会を見据え、誰もが安心して暮らすことができるための交通網確立に向けて進めている。

地域における生活の足として、本町の地域間幹線であるJR釧網本線と接続したバス等の身近な公共交通を維持確保していく必要性は非常に高く、また、路線の見直しを行うことで、今後の利便性の向上や利用者数の減少に歯止めをかけ、将来にわたって持続可能な公共交通体系として再構築することを目的とする。

生活交通確保維持改善計画の目標

H25年度事業で路線延長した美留和線に加え、H26年度には地域協働推進事業での利用者ヒアリング及びワークショップの意見を反映させた「川湯線」の路線延長を行うことで利便性の向上が図られ、更にH27年3月より利用者意見を反映させて「弟子屈市内線」の路線延長を行った。

目標数値としては人口減少を鑑み、年度毎の年間輸送人員をマイナス12%以内の減少に留めることとしている。

市内線目標値5,125人、美留和線目標値11,813人、川湯線で目標値5,883人、目標合計22,821人。

令和元年度事業概要

- ①美留和線 摩周営業所～摩周分岐～大鵬相撲記念館前(川湯温泉街と弟子屈市街を結ぶ路線(27.2km)。1日3.0回運行、150～820円の運賃)
- ②川湯線 大鵬相撲記念館前～苗畑入口～大鵬相撲記念館前(川湯温泉街とJR川湯駅を結ぶ路線(5km)。1日6.5回運行、150～290円の運賃)
- ③弟子屈市内線 桜町団地前～摩周駅～桜町団地前(弟子屈市内を循環する路線(20.3km)。1日4.0回(1,6便各1.0回)運行、150円一律運賃)

地域公共交通の現況

- ①JR釧網本線
(川湯温泉駅、美留和駅、摩周駅、南弟子屈駅)
- ②阿寒バス(株)(町内4路線)

協議会開催状況

令和元年6月25日 第1回協議会を開催

○主な協議事項

平成30年度事業完了報告、収支決算報告及び令和元年度事業計画等について

令和2年度地域内フィーダー系統確保維持計画について

弟子屈町地域公共交通網形成計画について

令和元年9月6日 第2回協議会(書面会議)を開催

○主な協議事項

平成31年度地域内フィーダー系統確保維持計画の一部変更について
弟子屈市内線運賃の改定について

令和元年12月24日 第3回協議会を開催

○主な協議事項

弟子屈えこパスポート事業(夏期)結果報告と(冬期)の概要について
地域公共交通確保維持改善事業・事業評価について
弟子屈町地域公共交通網形成計画に関する取り組みについて

令和元年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

市街地区及び公共交通空白地域を対象に公共交通に関するアンケート調査と、利用が伸び悩んでいる弟子屈市内線において、デマンドバス導入の可能性を調査するため2ヶ月間実証実験を行った。

2) 運行系統

美留和線及び川湯線



弟子屈市内線



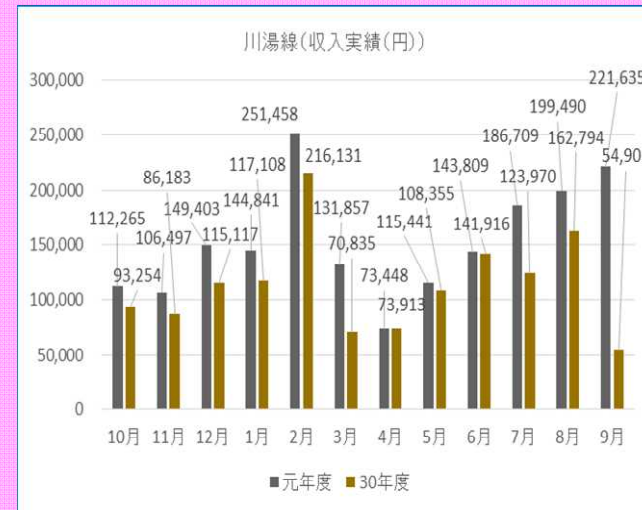
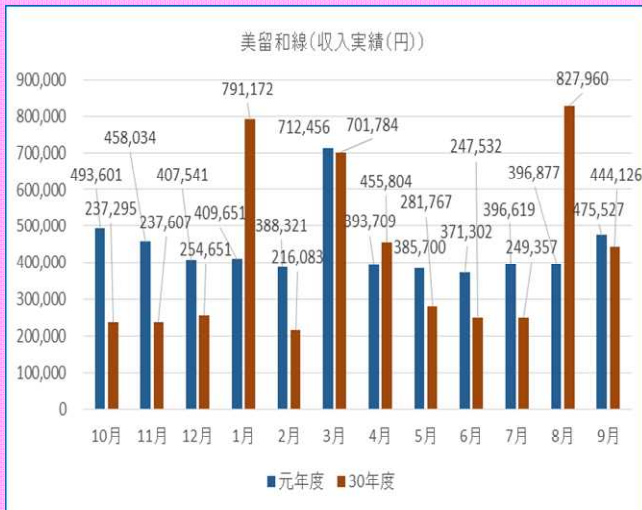
拡大図内の停留所間は、**150円均一運賃区間**です。



3) 利用実績



4) 収入実績



5) 事業実施の適切性

計画どおり事業は適切に実施された。

6) 目標・効果達成状況

令和元年度(H30.10～R元.9)の年間輸送人員は美留和線で12,434人(12,554人)、川湯線で8,558人(6,302人)、市内線(1便、6便を含む)で3,658人(5,138人)となり合計輸送人員は24,650人(23,994人)となった。

前年度対比では、川湯線で上回った結果となった。市内線で減少したが、2ヶ月間デマンドバス実証実験を行い運休したことによる。人口減少を見据えた年間輸送目標の22,821人を、川湯線輸送人員の増加により超えることができた。

7) 事業の今後の改善点

外国人観光客等増加に伴い川湯線において輸送人員が伸びたが、市内線については伸び悩んでいる。

アンケート調査によると、市内線バスを利用したことがある人は、回答者の9.5%で、その大半が月1回程度の利用にとどまっている。

市内線においてデマンドバス導入の可能性調査のため実証実験を実施したが、市内線バス利用者数を下回る結果となった。

路線バス利用促進に向け、自治会ごとに地域住民とのヒアリングを実施し、ニーズを的確に把握し、目標を維持しながらも、より効率的で利用者が利用しやすい環境を整えながら維持改善を目指していく。

8) 地方運輸局における二次評価結果

(令和2年度分と併せて評価)